

## 高等学校グランドデザイン会議第1回東青・下北地区部会概要

日時：平成18年9月19日（火）

13:30～15:30

場所：青森県総合社会教育センター

<出席者>

佐々木昭則部会長 遠島副部会長 石橋委員 木村委員 工藤委員 佐々木司委員  
田村委員 遠間委員 馬場委員 三上委員

佐々木昭則部会長

部会長を務めさせていただきます佐々木です。よろしくお願いします。

【各委員から自己紹介。】

佐々木昭則部会長

設置要綱10により、副部会長は部会長が地区部会員の中から指名するという規定となっており、それを受けまして、副部会長を指名させていただきます。副部会長を県立田名部高等学校校長の遠島委員にお願いしたいと思います。遠島委員は、むつ出身で、しばらく県教育委員会にお勤めになられた後、現在は田名部高校の校長先生という事で、両地域に精通していらっしゃいます。さらに部会長に事故ある時の代理という事で、若干事務的な業務もありますので、そのような点も含めて適任だと思えます。皆様いかがでしょうか。

【全員から賛同を得た。】

佐々木昭則部会長

ありがとうございます。それでは、遠島委員に副部会長をお願いします。

次に意見交換に移ります。先程全体会において高等学校グランドデザイン会議の年間の流れについて説明がありました。そこで、私達の使命ですが、検討会議と専門委員会に地域の意見を反映させるために様々なお話をいただくという事がメインであり、ここで必ず結論を出す必要はないと思えます。むしろ、学校の教員となりますと教育に対しての見方が狭くなりがち傾向もありますので、部外者の方々の高校時代の御経験や、現在の世の中の状況等を加味しながら、また、少子化により生徒が減って行く状況において、平成21年度以降の青森県の高校がどうあれば良いのか、絶対にこうでなければいけないという結論は出ないと思えますが、こういう方向が良いのではないかという程

度でよいと思いますので、自由に御意見をいただきたいと思います。

まず、全体説明の中で何か御質問や、この場で確認しておきたい事等はございませんでしょうか。

#### A 委員

先程平成25年、平成30年と学級減の説明がありました。専門性を学ぶ学校や小規模校では1学級40人以下の少ない人数で、他の普通高校は40人という説明がありました。小学校では30人学級なども実施していますが、学級を減らさずに学級の人数を減らすという考えもあるかと思えます。今後、学級の人数を減らすなどという考えはあるのでしょうか。

#### 事務局

専門委員会においても同様の御質問をいただいています。今回の検討にあたっては、今の学級の人数規模は崩さない事を前提にお願いしております。学級の人数については40人として見ており、その40人の規模で教員数が決まりますので、基本的には40人で御検討をお願いしたいと考えています。

1学級の人数を減らす事については、教員数は学級数ではなく生徒数で配置されますので、少ない人数の学級を増やしても教員数は増えない事から、先生方の苦労が増す事にもなります。例えば、1学級40人の学級が8学級あったとすると、1学級を5人減らして35人とした場合、学年全体で40人の生徒が少ないという事になりますので、1学級分の教員配置がなくなる訳です。従って、学級の人数を少なくしたからといって必ずしも良いという訳ではない事を御理解ください。

#### 佐々木昭則部会長

学級減に歯止めを掛けるという事について、1つの対応として、1学級あたりの人数を減らせば良いのではないかという事で、いくらかはカバーできると思います。しかし、それに伴って、教員の配置が生徒数の頭割りで計算されると、学級は残っても教員の配置が減ってしまうという危険性が背景にあるようです。

私共は、専門委員会への意見が求められている訳ですが、先程資料が渡されたばかりで、この場で意見というのも難しいと思いますので、大きく分けて、専門高校、普通高校、総合学科の適正な学校規模や配置はどうあれば良いかとか、あるいは、生徒の進路希望に応じた学科・コースの在り方はどうあれば良いかとか、大学、中学校の連携はどうあれば良いかとか、大きな括りの中で、自由な御意見で構いませんので、お一人ずつ伺いたいと思います。

#### B 委員

少子化という問題により、このような高校のランドデザインを考えなければならな

いという事になっていると思います。小中学校においても統廃合が問題になっております。小中学校の統廃合がやむを得ない状況を考えると、高校の再編成も必要な事だと私自身考えております。やはり、子供達が学びやすい環境を作ってあげるのが私達の使命だと考えています。しかしながら、まだ先程専門委員会の意見資料に1度目を通しただけですので、自分なりに感じとりながら自分の意見を述べるべきか、まだはっきりしていませんので、これから皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。

#### C 委員

現在は、色々な子供達があります。今、非常に危惧しているのは、家庭の経済状態が苦しいという事であり、そのような中で学校選択の幅が非常に少ないという事があります。経済的に難しい状況の中で、どうしても外に出ざるを得ない子ども達を救えるようなグランドデザインであって欲しいと考えています。様々な面で考えて行かなければならない大きな問題だと思いますので、自分も次までに色々な知恵を出し考えて行きたいと思います。

#### D 委員

私の子供は小学校という事もあり、まだ狭い目でしか見えていませんが、私の娘が高校に行った時にどうなるのだろうと考えた時、先程意見があった中で、学級の人数を減らしても教員数は法律で定められた数になるという説明をされると、物申したくなります。1学級40人というのは、ずっと長い歴史の中で出てきたのかも知れませんが、果たして今の時代それで良いのでしょうか。生徒数が少なくなればなるほど、先生方の生徒に対するフォローの度合いが多くなるのではないかと素人目に考えます。そう考えますと、専門性が高くなる高校などは、さらに先生の数が多く必要なのではないのかと思っています。そういう事を考えながら、次回に向けて勉強して参りたいと思います。

#### 佐々木昭則部会長

教職員の配置について、法的な人数云々という話がありましたが、実は私達はそういう事を無視して、青森県としてこうあらねばならぬというくらい強い気持ちでおりました。しかし、県教委に代わって弁解しますと、青森県として教員をどんどん配置はできません。それは、税金で皆さんがお金を出し合い教員を増やして行くという事であれば、国で定めた数にこだわらないで配置できるという事です。そこには青森県の経済力との兼ね合いが出てくるという事だろうと思います。しかし、御意見をお話になる時は、そのような条件を無視して、こういう風にされた方が良いのではないかという、今のような御意見で良いと思います。また、これから勉強して行かざるを得ない事だと思います。

#### E 委員

今、経済的な面の話が出ており、県の予算状況も色々あると思いますが、私は生徒の

家庭の問題が特に地域の学校の問題になっていると思います。現実的に考えると、都市部から離れた所ですと、通学など色々な経費がかかる訳です。そういう部分を補うものとして、地域の高等学校があり、非常に助かっている訳です。もし、これが無くなった場合どうするかという事ですが、そのような場合は、寄宿舍を作るとか郡部の生徒を救うような方法で、生徒の希望や夢を叶えるようなシステムを作って行かないと無理が生じてくるだろうと思います。そうなるも昔の集団就職のように、出て行ってしまいうような事もあり得るのではないかと危惧しています。もし、地域に学校が残せないのであれば、拠点校という事ではなくても、普通の高校に通いたいという生徒があれば、ある程度の距離で家庭から通える所に高校がある事が理想であると考えています。

#### F 委員

大変たくさんの資料を渡されて、何をお話しすべきか戸惑っていますが、私共は平成21年度以降よりさらに先の平成40年度くらいの少子化への取り組みとして、私共は集団お見合いを通して子供を増やそう、生徒を増やそうという事を進めております。そういう事で、私は10年先でなく20年くらい先の学校教育の事を考えて行きたいと思っており、これから勉強して行きたいと思っています。

#### G 委員

私は全く畑違いの立場ではありますが、今の学校制度そのものが、高校については限りなく100%に近い進学率、さらに大学への進学率も高くなってきています。私は専門委員会でも申し上げていますが、大学進学率が高くなった事は決して良い事だとは思っていません。大学に進学してしまうと地元にも残らないという事からきています。いかにして高校を卒業して地元で仕事に就いてもらうかという考えを推し進めるべきであって、そういう事に対応できる学科やコースを設定すべきだと考えています。先程教員の話がありましたが、総合学科としている学校において、科目を作りたくても先生の数に限りがあり作れない、また、1つのコースの生徒数という事もあり、なかなか学校が欲しい科目が作れないという事もあると思います。

下北では大湊が総合学科、中高一貫教育という形をとっていますので、現在、校長先生から情報収集に努めているという段階です。この地区部会においては、私共、県内でも僻地の状況にある下北の教育という観点で意見を述べて行きたいと考えています。

#### H 委員

私は郡部ですので、郡部の学校の方向性という事に関心を持っています。資料1の5ページにある校舎制移行への実施年度の表によると、東青地区においては、平内高校が平成22年度に青森東高校平内校舎へ移行、今別高校は平成19年度に青森北高校今別校舎へ移行、川内高校が平成20年度に大湊高校川内校舎へ移行、大畑高校が田名部高校大畑校舎へ移行となっており、閉校という予定にはなっていないようですが、やはり

地域にある学校は大切なもので、諮問の方向と外れるかもしれませんが、この郡部の高校こそ学科に特色を持たせるべきではないかと考えています。どうしても学級数が少なくなると普通科的な学校になってしまうのかもしれませんが、地域の高校こそ、その地域に合った学科、地域の産業構造、就業構造に合った特色ある学科で構成すべきであると考えます。この点について、今後、皆さんの意見を伺いながら、また、私なりに資料を拝見し勉強しながら意見を述べたいと考えています。

佐々木昭則部会長

H委員は、地域に合った学科という事について、何か具体的なイメージとか、例えばあの学校にあの学科というようなお考えがあれば伺いたいのですが、いかがでしょうか。

H委員

例えば、今別高校、川内高校、大畑高校を含めて、農林業よりは水産業の方が盛んです。水産高校は八戸にありますが、水産業プラス食品加工的な業者などは下北地区や東郡地区にもあり、また農林業もあります。具体的な学科、コース名は、まだ漠然としていてあげられませんが、1.5次、2次産業に繋がる特色ある学科を地域に開設して、市部の生徒を呼び込む事により、郡部の高校の存続にも繋がるのではないかと考えます。

佐々木昭則部会長

確かに、言われてみると20年度までに校舎になる学校は海に近い学校です。水産高校という事にこだわらず、しかも1次産業ではなく、1.5次産業等で、地域の子ども達が興味を持てる学科があってもいいのではないかという意見だったと思います。

H委員

そうですね。地域にある学校こそ、地域の特色を生かした学科が望ましいと考えています。

佐々木昭則部会長

現在の所、20年度までは第2次実施計画で方向性が示されていますが、21年度以降の学校については検討できると思います。三方を海に囲まれた青森県にあって、水産という枠組みに捉われず、何か海に関連する学科があってもいいのではないかという事です。

G委員

下北では、川内と大畑が20年から校舎化になり、何年もつのかなという事を考えなくてはいけないと思います。20年になっても30年になっても続けるという保障はない訳ですから、30人以下になったらおそらく閉校という事になるでしょう。次回に発

言したいと思っている事は、下北は原子力半島であるという事と、むつ市には海洋地球研究船や海洋研究開発機構の研究施設があります。そういった特色のある地域であるだけに、そういう方面に働く人材が求められ、それに応えるような教育ができないものかと思います。農林水産も大切ではありますが、原子力や海洋研究という新しい分野もこれからは必要ではないかと考えています。

佐々木昭則部会長

今日、これまでの話において、地域にこそ特色ある学科が必要ではないかという声があるように感じましたが、他にこの事について御意見はございませんか。

先ほどのE委員の意見にあった寮を作るという話ですが、あれは地域の子ども達が市部の高校に通う時に、市部に寮を作ってもらおうとありがたいという理解でよろしいのでしょうか。

E委員

地区に専門の工業高校や商業高校でもあれば別ですが、地区にある学校は普通高校です。確かに地区の学校に専門的な特色を出す事は大変良いと思います。しかし、生徒の現状を考えると、現実的には地域の生徒全員が、例えば水産業や食品加工業に携わる訳ではないので、むしろ、希望がある生徒は八戸水産高校でも行けるようにしてあげて、努力した生徒は行けるという形になれば良いと思います。ただし、基本的には私の考えは少し違いまして、地域には将来に向けて色々分かれて行く事ができる学校が必要だと考えています。そうでないと選択性や可能性が狭められてしまうような気がします。現状を考えると、その地域にぴったりあったコースを設定する事はなかなか至難の業ではないかと思います。総合学科等は考えられますが、やはり少し厳しいかなと感じます。

佐々木昭則部会長

先程の水産高校の話は、統廃合はやむを得ないが、遠方に通う生徒の家庭に経済的な負担をかけないようにしなければならないという理解でよろしいでしょうか。

E委員

そういう事です。現実的には、ひょっとして地域の普通高校も設置できなくなる事が考えられる訳ですから、そのように対応して行く事になると思います。

佐々木昭則部会長

まだまだ言い尽くせないとは思いますが、そろそろ時間となりましたので、次回に伺いたいと思います。最後に、副部会長から全体の意見を聞きながらの御意見をお願いします。

#### 遠島副部長

これまでの話で、むつを含めて下北地区が大変遅れているという話がありました。私も青森に3年間いた中で、その事を痛切に感じました。そこで、田名部高校へ行き私は何をすべきかと考えた時、やはり教育であるという事、この地区の子ども達の中から地域おこしなどで活躍できるリーダーを育てて行く事が必要だと考えました。その時に何が足りないかという教育する人材、地元で腰を据えて教育する人材が足りない、この部分を田名部高校が担って行かなければならないと考えています。そうした時に、以前9学級あったものが現在は6学級です。6学級でギリギリだと思っております。それは何かと申しますと、教育的な条件の関係です。先生になるための大学受験に必要な科目を指導する先生が、生徒数が少なくなると揃える事ができなくなります。従って、今の学級数を維持する事で、下北地区の人材を育てて行きたいというのが私の考えです。

#### 佐々木昭則部長

ありがとうございました。みなさんからいただいた意見をまとめて、専門委員会にお伝えしたいと思っております。